

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 株式会社 江戸カルチャーセンター

1 事業の趣旨・目的

東京都の外国人登録者数は平成20年10月時点で約40万人。全国第一位である。平成15年から17年までは、微増にとどまっていたが、その後は、2万人ずつ増加している。区市町村別では、新宿区、江戸川区、足立区、港区の順で多い。

当校が所在する港区では、平成20年12月に港区外国人意識調査報告書を出している。その調査アンケートに回答した382人の中で、今後日本語を学びたいと答えたのが74.3%にのぼった。また、どのような方法で学びたいかとの問いには「日本人との交流や友人関係を通して」が最も多く51.4%。「独学で」が49.6%、「日本の日本語学校(有料)で」が36.3%、「ボランティアによる日本語教室など」が32.4%と続いている。多くの外国人が日本語を学びたいと答えているが、「日本人との交流」「友人」「独学」「ボランティア」という言葉からみると、無料、もしくは少額で日本語を学べる環境の需要が高いと言える。

そこで、当校では、この状況を踏まえ、ボランティアで日本語を教えている人やこれから始めようと考えている人を対象とし、実践的かつ応用力を養うだけでなく、生活領域における言語問題(病院や役所などの手続き)等を把握することにより地域に密接的な日本語教育を行える教師を養成する趣旨を持った講座を開講する。

講座では、日本人の視点からだけでなく外国人の視点からの現状を双方にて意見交換する場を設けることにより、一方的でなく双方向からの視点での問題提議を行う。講義内で話し合い今後どのような環境づくりが大切なのか把握し、何をすべきか見出していく。

最終的に、受講生が本講義を基礎として、教育現場や外国人の生活環境で起こる様々な問題点などを引き続き解決するよう努力し、外国人と日本人が共に暮らしていける社会を作ることとする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
12月23日 17:00~18:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子	講座カリキュラムの作成 受講者募集方法の提案	講座カリキュラム案を作成。受講者募集方法について、どこに、どのようにアプロ

		中澤進太郎		一子をかけていくべきかを案を出し合った。
12月28日 17:00~18:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子 中澤進太郎	講座カリキュラムの確認 受講者募集方法の確認・指示	講座カリキュラムの確認をし、受講者募集方法について、どこに、どのようにアプローチをかけていくべきかを話し合った。
1月21日 17:00~18:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子 中澤進太郎 関山聡之	開講初日の報告 受講者募集への諸問題 使用機材の確認 受講者からのクレーム対応の確認	ボランティア講座が開講し、初日の結果を踏まえて、今後の対策を話し合った。また、問題点を定義し、解決策を話し合った。
2月26日 17:00~18:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子 中澤進太郎 関山聡之	講座の状況報告 解決策の確認・指示 講座終了後の確認	進行中の講座の現状を報告し、事務局側が感じた問題点を提議し、指示を受けた。講座終了後のレジメの送付や報告書製作について話し合った。

【写真】(会議風景)



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 ボランティアを対象とした実践的長期研修
- (2) 研修の目標 日本語教師としての視野を広げる
- (3) 受講者の総数 19 人
- (4) 開催時間数(回数) 40 時間(10 回) それに加え実習 20 時間 計 60 時間
- (5) 参加対象者の要件・・・ボランティア教師、これからボランティア教師になるもの
- (6) 受講者の募集方法・・・親交があるボランティア団体への情報提供
親交がある大学への情報提供
東京 23 区内のボランティア団体への呼びかけ
- (7) 研修会場
ア 講義・・・江戸カルチャーセンターD 教室
イ 実習・・・江戸カルチャーセンターA、B、C 教室(授業見学)
- (8) 使用した教材・リソース
担当講師が作成したプリント
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
1月20日(火) 13:00～17:30	アイスブレイキング・ガイダンス	山辺真理子氏 (立教大学兼任教授)	16
1月27日(火) 13:00～17:30	多文化共生社会とは	山田泉氏 (法政大学キャリアデザイン学部教授)	15
2月3日(火) 13:00～17:30	授業および活動の見方	金田智子氏 (国立国語研究所 日本語教育基盤情報センター)	16
実習① 実習② 実習③	日本語学校の授業見学(ワークシート) 入門(初級)レベル／中上級レベル 地域の日本語教室見学(ワークシート)		17
2月10日(火) 13:00～17:30	文法は何のためにあるのか	春原憲一郎氏 (立教大学大学院特任教授)	15
2月17日(火) 13:00～17:30	授業見学の振り返り(学校と地域の違い)	金田智子氏 (国立国語研究所 日本語教育基盤情報センター)	13
2月24日(火) 13:00～17:30	地域の日本語支援	野山広氏 (国立国語研究所日本語教育基盤情報 センター整備普及グループ長)	17
3月3日(火)	実習企画を考える	山辺真理子氏	13

13:00~17:30		(立教大学兼任教授)	
実習④	実習準備(グループワーク)		17
3月10日(火) 13:00~17:30	住み易い地域とは	木村哲也氏 (杏林大学外国語学部講師)	13
実習⑤	本実習		17
3月17日(火) 13:00~17:30	就労現場のコミュニケーション	神吉宇一氏 (財)海外技術者研修協会(AOTS) 研修 部日本語課/AOTS 日本語教育センター	12
3月24日(火) 13:00~17:30	全体の振り返りとこれからの活動	山辺真理子氏 (立教大学兼任教授)	14

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

当講座では、講座修了後、受講者対象に修了アンケートを行った。アンケートを提出した有効被験者は14名。無記名形式で行った。各項目別の結果は下記の通り。

<p>01. 講座の期間はいかがでしたか。</p> <p><input type="checkbox"/>短かった…1名 <input type="checkbox"/>ちょうどよかった…13名 <input type="checkbox"/>長かった…0名</p> <p><短かった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的考え方の講義で、方法論まで行かなかった。 <p><ちょうどよかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月という短期で、週一回だったので、緊張が持続できた。3ヶ月間頑張っちゃおうと思った。長期間、または回と回があくとダレる恐れあり。 ・これ以上長いとスケジュール調整が難しくなる。 ・スタート時は長いと思ったが、最終日を迎えて何か寂しさを感じた。 ・いろいろな話が聞けて大変参考になった。 ・途中で休み時間が入るのでよかった。 ・当初、長いように感じましたが、終わってみれば「もう終わり？」と感じたので。 ・最初長いような気がしましたが、1時間1時間が充実していて、終わってみれば短くも感じます。
<p>02. この講座をどこで知りましたか。(複数回答可)</p> <p><input type="checkbox"/>江戸カルチャーセンターのHPで…1名</p> <p><input type="checkbox"/>江戸カルチャーセンターからのチラシ・DMで…0名</p> <p><input type="checkbox"/>所属団体のメーリングリストで…9名 <input type="checkbox"/>友人・知人の紹介で…2名</p> <p><input type="checkbox"/>講師からの紹介で…2名 <input type="checkbox"/>その他…0名</p>
<p>03. 講座に参加されて、よかったですか。</p> <p><input type="checkbox"/>とてもよかった…14名 <input type="checkbox"/>よかった…0名</p>

あまりよくなかった…0名 よくなかった…0名

- ・講師陣がすばらしく内容も大変濃かったから。
- ・考え方の幅が広がった。見方の角度が広がったので。
- ・日本語ボランティアの全国的な活動の状況がよくわかったから。
- ・国語研究所の方など普段話が聞けない人の話が聞けたこと、他のボランティア教室のことが知れたことがよかったため。
- ・日頃考えなかったことを考えさせられました。

04. 特に役に立った講義は何ですか。(複数回答可)

- ①「アイスブレイキング・ガイダンス」 山辺真理子氏…8名
- ②「多文化共生社会とは」 山田泉氏…8名
- ③「授業および活動の見方」 金田智子氏…10名
- ④「文法は何のためにあるのか」 春原憲一郎氏…9名
- ⑤「授業見学の振り返り(学校と地域の違い)」 金田智子氏…6名
- ⑥「地域の日本語支援」 野山広氏…11名
- ⑦「実習企画を考える」 山辺真理子氏…8名
- ⑧「住みやすい地域とは」 木村哲也氏…8名
- ⑨「就労現場のコミュニケーション」 神吉宇一氏…9名
- ⑩「全体の振り返りとこれからの活動」 山辺真理子氏…7名

- ・③今までは他クラスを見学しても先生役のアラばかり見ていたが、まったく視点が変わった。
- ・③は具体的に現在のやりかたを再検討する手法として役立つ。
- ・③スキルの習得ができた。
- ・④能代の北川さんのクラスのありかたが参考となった。
- ・④視点を広く大きく取ることの大事さを痛感。
- ・⑤総じて内容豊富で質の高い講義でした。
- ・⑥いろんなバラエティーがあることを学べた。
- ・⑨自己紹介のやりかた(自分に関して何か言葉を書いて、それを他者が質問)が参考になった。労働現場のことを知らなかったので、問題点が少しわかった。
- ・外国人との交流のスタンス、考え方および外国人に対する日本語の教え方について参考になった。
- ・それぞれに得るものがあり、参考になりました。
- ・現状の理解実習報告による他のグループ活動がわかった。
- ・日本語を教えることの背景を考えることができた。日本にいる外国人に対する見方の再考を迫られた。
- ・グループワークの紹介などが役に立ちました。また講師の方々が専門に活動なさっているので話も面白かったです。
- ・ハウトゥー的に学ぶもの、WHAT、WHYなど、それぞれすぐ役に立つもの、今後の土台となるも

の、いろいろなものが組み込まれていた。

05. 実習はどうでしたか。

- 非常によかった…2名 よかった…11名
 あまりよくなかった…0名 よくなかった…0名
 その他[特になし、いつもしていることなので。

ただ、他の人の報告をきいたのがよかった。]

- ・普段自分の持っているクラスではないので、バックグラウンドを知らなかったが、それでも何か工夫して努力もしたので自分のためにもなった。
- ・時間的には短かったが、おおよそ当初の目標を達成したと思う。
- ・このような機会がないと地域の日本語教室に顔を出すことができず、視野が広がらない。
- ・ちょっと準備不足もあった。
- ・複数の人と授業の内容を一緒に考え実行できて、楽しく、今後の教案作りに役立つと思えたから。
- ・非常に学びになってよかった。しかし、個人で参加している人は大変そう。
- ・楽しいものになりました。

06. 今回の参加目的は何でしたか。(複数回答可)

- 教室運営におけるスキル向上のため…6名
 日本語を学ぶ学習者の現状を把握するため…7名
 日本語教師として視野を広げるため…8名
 日本語教育に携わる第一歩として…3名
 ボランティア団体や知人に伝えるため…2名
 生涯学習の一環として…3名
 その他…0名

07. 受講して、当初の参加目的が、どのくらい達成されましたか。

- ほとんど達成できた…0名 ある程度達成できた…14名
 あまり達成できなかった…0名 全く達成できなかった…0名

- ・スキル向上を目的として参加しましたが、単なるスキルではなく根底に持っているべきものを教えられた気がします。
- ・多様な現場があることを見聞できたから。
- ・日本語教師を目指す者として、日本語教育界の現状が少し見られたような気がします。世界が広がったという部分で達成できました。
- ・日本語の文法についての回を欠席したためもあるが、もう少し日本語そのものについて勉強したかった。
- ・幅広く話が聞け、実習等にも参加でき、視野が広がった。
- ・他のグループと話げできたことが大きい。
- ・日本語の教授法が中心ではないかと思っていたが、日本語教授法についての講義は少

<p>なく、活動に臨む考え方や交流方法が中心であったような気がする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく、毎回飽きるということがなく、気分は学生という感じで、先生からいろいろ吸収できた。
<p>08. 講義の内容で、今後活動に生かせそうなことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動の実態を知ったこと。 ・授業の組み立て方。学習者のとらえ方。接し方。 ・日本語を教えるというよりは、もっと広く厚くボランティア精神が必要であることを学べた。 ・他のボランティア教室で行っている授業の仕方。習ったグループワーク・ゲーム ・アイスブレイキングの方法 ・多文化共生 ・自己紹介の仕方、フォトランゲージ、グループ分けのやり方、 こちらの目的を行うと目の工夫、こちらからの外国人への声掛け。 ・能代方式をさらに詳しく知りたい。 ・講義内容が多方面にわたり、すべての活動の裏付けになると思った。 ・少子高齢化を迎えて、外国人採用は今後避けられないので、これらの状況に対処すべく応用、実践していきたい。
<p>09. 講義の内容で、今後習得していかなければならないと思ったことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人の実態を知ること。 ・地域の活動の実情について知ること。 ・外国人、人間、社会の見方、感じ方。 ・細かいテクニックよりもどれくらい相手のことを考えられるか、やさしくなれるか。 ・日本語教育で使用する用語。OPI など。 ・もっとシステムティックな対応を考える必要があると感じた。 ・学習者の本音を知ること。 ・目的を具体的にたて、達成度の評価を意識していきたい。 ・日本語指導スキル。 ・どのように日本語を教えていくか。
<p>10. 講義の内容で活用しにくいと感じられたことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学の仕方は勉強になりましたが、場数を踏まないと難しいと感じた。 ・日本語文法といった硬い話は母国語でもなかなか難しい。 ・授業見学の仕方。 ・多文化共生社会は良い言葉だが、共生と同化の線引きが難しく実際の場面では活用は難しいと思う。
<p>11. 今後どのような活動をしていこうと考えていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語ボランティアをつづける。 ・ボランティア教室に来る人が続けてきてくれるようなおもしろく、楽しい授業をしていきたい

い。

- ・外国人としての接し方に今回コースで学んだことを生かし、日本語を通じての交流を高めていきたい。
- ・現在のボランティア活動を続け、初心者に教えることのできるメソッドを作りたい。
- ・すでに活動が決まっている次年度からの子供への日本語指導。
(学校派遣、中学生3名、小学生1名)
- ・日本語講座でのボランティア活動をしながら、日本語教師の資格をとりたい。
- ・今までの地域での日本語ボランティア。

12. 今後どのような講座があったら、受講したいですか。

- ・スキル向上とともに、今回のように物の見方、考え方を深められるもの。
- ・地域の日本語教室の理念と実践の紹介。(特に失敗例)
- ・日本語教育界で働くにはどのような道があるのか、またその道で働いていらっしゃる方のリアルな現場の声が聞けるもの。
- ・多文化共生はもっと深めたい。
- ・直接教授法
- ・具体的、実践的な日本語教育手法
- ・子供への日本語指導、漢字指導
- ・日本語教師養成

13. 事務局の対応はいかがでしたか。

- とてもよかった…8名 よかった…2名
あまりよくなかった…0名 よくなかった…0名

- ・事前準備をもっと早期にしたほうがよかったのでは。
- ・もっと情報を早く流していただければよかったと思う。

14. その他感想など、ご自由にお書きください。

- ・開始時間をもっと遅くしてほしかった。
- ・毎回新しい事に目と心に向けさせられた気がします。日本語サポーターをして、外国の方との話し合いに参加できたことも幸いでした。
- ・いろいろなお話を伺う機会をいただき非常にありがたかったです。
- ・あまり参加できませんでしたが、大変学びになり感謝です。
- ・大変役立つ内容であったので、今後にかきたい。
- ・長期にわたり、3時間ずつ続けられるか不安だったが、内容が充実していたばかりか、参加者からの刺激も大きく大変ためになった。特に23区内で活動されている方々と直接お話しできたことで、地域差を肌で感じる事ができた。
- ・講座会場が赤坂駅からすぐというところにあるということは別の意味で楽しかった。
- ・大変密度が濃かったと思います。
- ・とても楽しく勉強できました。

② 実施主体からの研修内容結果評価

この講座は、内容に対する満足度の高さが、受講者からのコメントでもわかる。とくに、「他のボランティア団体」の活動を見学し、意見交換をすること。また、実習に対する評価の仕方や授業のやり方などについても、いままでとは異なった視点から学ばせることで、受講者の視野を広げることができた。視野が広いボランティア教師が各地に広がることで、日本語教育の裾野が開かれることが大いに期待できる。

ただ、講座を開講する事実を公開した時期が遅く、受講者募集活動が遅れてしまい、それに、ほとんど時間をかけることができなかつた点や、実習先となったボランティア団体にも、打ち合わせが不十分となり、主催者としてご迷惑をおかけしてしまったことは、反省すべき材料である。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

当校が所在する港区在住の外国人は、近年では、朝鮮・韓国籍、中国籍が増加傾向にある。また、区内に在住する外国人が同国人のコミュニティーを活用したいと考えていることから、今後は港区並びに港区内のボランティア団体等に呼び掛け、主に朝鮮・韓国籍、中国籍を対象とした活動の基盤を築きたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

当講座では、ボランティア団体で活躍している受講者が多いが、これから活動を本格化させたいと考えている方もいた。当校では、それらのボランティア団体や、講師の先生方が活躍されている団体等と今後リンクしていけるよう働き掛けていく。

② 研修後の人材活用

ボランティアとして関わりを持ちたいと考えている受講者の他に、職業として日本語教師を目指していく受講者もいるだろう。日本語学校として受講者の質問、疑問に答えられるようにしていきたい。

(12) 今後の課題

今回は、受講者の募集に時間をかけることができず、受講者の数の割には、所属団体数が少なかった。今後は、このような講座を受託した際には、できる限り多くのボランティア団体への情報提供をしていくつもりである。